

## 第2回新しい長崎県づくり懇話会

- 1 日時 令和5年5月17日（水）14時30分から17時00分
- 2 場所 長崎県庁 大会議室A
- 3 議題 「新しい長崎県づくり」のビジョンについて
- 4 配布資料 ○資料1 「新しい長崎県づくり」のビジョンについて  
○資料2 懇話会においてご意見をいただきたい内容  
○参考 第1回新しい長崎県づくり懇話会における意見の概要  
○新しい長崎県づくり懇話会委員名簿
- 5 出席委員 安部 恵美子 長崎短期大学 学長  
入江 英也 熊本大学 熊本創生推進機構イノベーション推進部門 特任教授  
菊森 淳文 公益財団法人 ながさき地域政策研究所 理事長  
楠本 美貴 にじがおか食育ファーム 代表  
佐藤 快信 鎮西学院大学 現代社会学部 教授  
下川 卓郎 株式会社 NAVICUS 九州 代表取締役  
艶島 博 十八親和銀行 常務執行役員  
中島 みき 株式会社カヤック ちいき資本主義事業部 部長  
永田 康浩 長崎大学医学部地域包括ケア教育センター 教授  
村上 純志 株式会社 サイノウ 代表取締役  
矢内 琴江 長崎大学ダイバーシティ推進センターコーディネーター／准教授  
山本 直子 公募委員
- 6 議事録

## ●事務局（小柳 政策企画課企画監）

皆さんこんにちは。定刻となりましたので、ただいまより、第2回長崎県新しい長崎県づくり懇話会を開催いたします。はじめに、大石知事からご挨拶をさせていただきます。

## ●大石知事

本日は、大変お忙しい中、第2回新しい長崎県づくり懇話会にご出席を賜り、誠にありがとうございます。

また、本日ご参加の皆様方には、県政の推進に対しても格別のお力添えをいただいておりますことに、重ねて感謝申し上げます。

さて、県では、県民の皆様と一緒に「新しい長崎県づくり」を進めていくため、概ね10年後のありたい姿をお示しするビジョンを策定しているところであり、このたび、第1回懇話会での委員の皆様からのご意見も踏まえて、骨子案を作成したところであります。

まず、ビジョンの策定の目的やコンセプトに込めた思いなども併せて、ご説明させていただきたいと存じます。

現在、本県を取り巻く環境は、グローバル化の拡大やデジタル化の加速など、様々な物事の変化が激しく、近い将来さえも見通すことが難しい状況に加え、新型コロナウイルス感染症の影響などにより、人々の意識や行動に変化が生じている状況があります。

こうした中、本県は、複雑な環境になってきてはいますが、100年に一度というような変革の時期でもありますので、その先の未来を見据えたことを考えていく大切な時期でもあるだろうと考えております。

長崎県は、皆さんご存知のとおり離島半島が本当に多くて、地形的にも非常に隔絶しやすいような地形的な特徴がございます。その中で人口減少、少子高齢化は他の都道府県に比べて本当に早く進んでいると。統計を見ますと2040年頃には生産年齢の人口が県人口の5割を切るという推計も出ております。そういった中で、労働力不足や地域経済の縮小、またコミュニティの維持の問題といったものもさらに大きくなっていくんだらうというふうに思っております。

本県は課題先進県ではございますけれども、このように不確実性が増して、大変厳しい社会環境の中でビジョンをお示しすること、県民の皆様と意思を一つにするということも非常に重要なことだと思っております。

どことなく、これは私の主観で大変恐縮ですが、県民の皆様は、本当に難しいところで、人口も減っていくという中で、閉塞感だったり先が細くなっていくような感覚だったりとか、将来に対する不安だったり、憂いだったり、暗い気持ちも持たれてる方もいらっしゃるんじゃないかなというふうに思います。

ですけれども、これからの新しい長崎を創っていくという中では、それをワクワク感とか、明るいイメージに変えていく必要があるというふうに思っています。特に期待感、若い方々がここを目指してくる、すべての世代の方々が安心して暮らせる、そんな長崎県にしていく必要がありますし、県民の皆様が誇りに思うような長崎県の未来図を皆さんと一緒に描いて示していきたいなということが私の思いでございます。

先程言いましたように、課題は本当に多くございます。ただ、言い方を変えれば、私はチャンスになるんじゃないかなということも思っています。離島や半島が多い地形的不利な状況もございますけれども、見方を変えますと、そういったところに新しいテクノロジーを入れてソリューショ

ンを作っていくと。そういった新しいテクノロジーの社会実装の場として、他の都道府県にはない魅力もあるというふうに思っています。そういったポテンシャルをしっかりと使っていく、今後を活かしていくという視点も重要だと思いますし、元々この長崎県にある自然、文化、歴史、食などの素晴らしいものもありますので、そういったものをしっかりと活用していきながら新しい取り組みを進めていくことが必要になってくると思います。

そういった中で、鎖国時代ですけれども、出島を通して世界に開かれていたこの地、日本の窓であった長崎ですけれども、様々なものだったり、人だったりが集まっていた歴史がございます。そういったものが混ざりあって新しいもの生まれてきたと。そういった背景がございますけれども、日本中から、若い人を含めて期待を持って、この長崎に集まってきたと思います。

このビジョンにおいては、そのような長崎県の歴史やDNAをもう一度皆さんと一緒に蘇らせたいという思いがございます。今一度、県民の皆様がこの長崎県に誇りを持っていただいて、国内のみならず、世界に向けても存在感を示すような、そういったビジョンを皆様と一緒に作っていきたいというふうに思います。

資料1に書いてございます「未来大国」ということですが、先細りだったり不安だったり憂いだったり、閉塞感を持っている暗い気持ちを明るく、もう一度長崎県の皆さんと一緒に誇れるような長崎にしていきたいという思いを込めてこのネーミングにさせていただいております。具体には、ただネーミングだけではなくて様々な課題を乗り越えていくために、これまで行政というところを見ますと縦割主体だったように思います。どうしても分野ごとに事業が進んでいくといったところで、隣のことはなかなか手が出しづらいといったことが特徴だったと思いますけれども、今後はそうではなくて、縦割りじゃないグループで分けて、例えば子ども大国とか書いておりますけど、関係する部局をしっかりとそこに集めて部局横断的な取り組みを進めていこうと。そういったことを考えてございます。また部局内、県庁内だけではなくて様々な立場の皆様が同じ方向を見て有機的な連携をしていくことが今後は大切になっていくと思います。これは民間も含めて、例えば知事部局だけではなく、教育庁や警察とか、そういったところも皆さんが同じ方向を向いていくようなビジョンを描くということが、我々は今求められてることかなと思っておりますので、メインとしては未来大国という県民の皆様の誇りを、プライドをドライブするようなネーミングを旗印のもとに、下の大国がいくつかありますけど、これは例示でございます。これからネーミングも変わると思いますし、枠組みも皆様の意見を聞きながらより良いものにしていきたいと思っておりますけれども、そういったものをいくつか描きながら、例えばこの大国はこういった10年後の未来、こういう社会になったらいいよねとか、そういったことを皆様の意見を聞きながら作っていったらというふうに思っております。今回はまだ固まっております。

私の思いと枠組みをお示しをさせていただきまして、どちらかと言うと皆様からフリーでこんなこともあったらいいんじゃないのかとか、こういった視点も大切なんじゃないのかといったご意見をできるだけたくさん聞かせていただいて、また次につなげていければというふうに思っておりますので、ぜひ忌憚のないご意見をいただきまして、実りのある時間にさせていただければと思っております。是非、今日は短い時間で恐縮でございますけれども、皆様のお知恵をお貸しいただけるようによろしくお願いいたします。

## ●事務局（小柳 政策企画課企画監）

ありがとうございました。それでは、本日お配りしております資料について、政策企画課長の内

田よりご説明申し上げます。

## ●事務局（内田 政策企画課長）

私の方から資料について簡単に説明させていただきます。まず資料Ⅰをご覧くださいと思います。こちらは1回目の懇話会で説明した内容も含まれていますけれども、「新しい長崎県づくり」のビジョンについて、目的や趣旨などの基本的な部分に関しまして記載しております。ビジョン策定の目的は、多方面から選ばれる「新しい長崎県づくり」、県民の皆様と一緒につくるということで、概ね10年後のありたい姿や施策の方向性をお示しして県民の皆様と共有し、県外にも発信して長崎県のPRを図るということを考えております。それから、総合計画の一部見直しとの関係でございますけれども、現在、総合計画の一部見直しの方にも着手をしているところでございますが、「新しい長崎県づくり」のビジョンでお示しする施策の方向性のうち、総合計画の期間内に取り組んでいくものについては、総合計画の方にも反映していくことを考えております。それから、右側に行きまして、現時点のビジョンの構成イメージですけれども、コンセプト、分野ごとのありたい姿、その実現に向けた施策の方向性といったものを考えております。

今回の懇話会の中で特にご議論いただきたいことは、赤枠で示してありますコンセプト、重点分野、全分野に共通する視点ということで、こちらについてご意見をいただくことをお願いしたいと考えております。2ページをお願いします。ビジョンのコンセプト案ですけれども、先程知事から未来大国ということでお話していただきましたが、未来大国の背景や思いについても先程の挨拶にもありましたけれども、簡単に申し上げますと、不確実性が増して、厳しい状況の中ではありますけれども、今の長崎県の変化、課題先進県であるからこそそのチャンス、それから本県が有している誇れる資源等を活かして、先細りしていく雰囲気を取り払って、明るい未来を県民の皆様と一緒につくりたいという思いから、具体的には縦割主体というだけではなくて横断的な取り組み、さらには様々な立場の皆様が同じ方向に向かって連携をしていくことを念頭に置いてございます。出島を想像していただければわかりやすいかと思いますが、そうした長崎のDNAを今に蘇らせて、世界に存在感を示す長崎県を作っていきたいということで、未来大国というコンセプトを掲げてはどうかというふうに考えてございます。3ページですけれども、未来大国の主な柱として、今回、5つの柱を考えております。子ども、交流、イノベーション、食、それから健康ということで、連携する視点を踏まえながら、こういった分野を掲げてはどうかというふうに考えております。それからあわせて、一番下のところですが、この5つの分野すべてに共通する視点として、デジタル、情報発信、人材育成確保といったものを考えています。4ページをお願いいたします。今回、委員の皆様にご議論していただくためのキーワードということで、1回目の懇話会でのご意見も参考にキーワードを記載させていただいております。子どもから健康まで、それぞれの大国において、こういうキーワード盛り込みながら、ありたい姿や施策の方向性などを、イメージ図なども使いながらお示ししていくことを考えております。それから次に5ページ、あらためて、各柱に共通する主な視点ということで、現時点で3点ありまして、その中で今考えられるキーワードというものを挙げているところでございます。これについてもいろいろご意見があらうかと思っておりますので、ご意見をいただければというふうに思っております。もう一つ、繰り返しになりますが、今回懇話会においてご議論いただきたいご内容ということで、大きく、コンセプトについて、それから2番としまして主な柱とありたい姿について、3番目としまして各柱に共通する主な視点について、それぞれ項目ごとにご議論をさせていただければと思います。配布資料の説明は以上でございます。

## ●大石知事

3ページの図ですけれども、それぞれの大国のイメージ、10年後どうなっていたいかを皆さんにアイデアをいただけたら。子ども大国だったら、どういった大国がいいのかなあ、子どもに関わる施策は、環境や社会がどういう形になってたらいいかなというような、そういったものを一つ一つ描きながら、未来大国を描けたらなと思っています。行政の中の問題ですけれども、今、縦割りという話をしましたけれども、今は必ずしも縦割りに合致してない時代になっていると思います。これを作るにあたり、農業大国とか水産大国とかいうネーミングもあったんですけども、それは縦割りそのものというか、今とあまり変わらないイメージになってしまうので、食の大国ということで合体させました。もちろん農林も水産も食だけではなくて、産業としてもやっていますから、移住も関わってきますし、そういったところで縦割りが全部なくなるわけではありません。ですけれども、部局横断的にしっかりとそのテーマと柱に則った、その分野で協力していくんだということも残しつつ、縦割りももちろんそこに含まれているのもあると思います。行政的にはそういったことが相まっていくようなイメージがありますけども、皆様には行政のことを少し離れていただいて、子どもに関する社会として、長崎というまちとして、子どもがどういった過ごし方をすればいいのか。子どもがどういった環境で育てられれば、魅力的な選ばれるような長崎県になるんだろう。そういった観点から、忌憚のないご意見をいただければと思います。

最後に、共通する視点ということでありましたけれども、3ページの一番下にオレンジのところで書いておりますけれども、それぞれの大国を考える上で、どういったことに留意しながら、それぞれを進めていくべきかということも併せて、忌憚のないご意見いただければと思います。それぞれの大国を考える中でも、だんだん視野が狭くなっていくと思いますけども、そこを抑止させるような、こういったところはちゃんと意識しないといけないよねということも併せてご意見をいただけると助かります。今3つほど例を出しておりますけども、もっと別なものがあれば、ぜひご意見をいただければと思います。

## ●事務局（小柳 政策企画課企画監）

それでは意見交換に入らせていただきます。ここからは内田課長に進行をお願いいたします。

## ●事務局（内田 政策企画課長）

改めてよろしくお願いします。今回の意見交換は、先程ご説明しました資料2にあります、1、2、3の項目にごとに行っていきたいと思います。それから、今回は順番に発言していただくのではなく、フリーに、ご意見がある方は挙手をお願いしたいと思います。オンラインの参加の方は、挙手アイコンを表示していただければと思いますので、どうぞよろしくお願いします。それでは早速、コンセプト「未来大国」についてご意見等ある方は、よろしくお願いいたします。

## ○菊森委員

私はこの未来大国というのは非常に重要な大きなコンセプトだと思っています。あえて申し上げるならば「未来幸福大国」に繋げていくことかなと思っています。これ自体の考え方が未来に向かって進化する、進んでいく、そういう大国であって、人間と技術の調和というものをベースにして、人間の歴史の普遍性に基づいて、現代はAI化とか、スピード化とか、自動化とか、人間の手をできるだけ煩わさなくて楽に生活ができるような形、次の進歩を生み出すような形を作って

いくのが、この技術と人間の関わりだというふうに、このコンセプトの背景にはあると思います。そして、長崎県自体が新しい技術を取り入れる文化であり、チャレンジしてきた文化であったわけなので、そういったことの必要性を今後も続けていくんだということを表しているのではないかなというふうに感じております。

## ○艶島委員

私も菊森委員と同じような意見なんですけど、今日来る前に資料を見せていただいて、上に書いてます「未来大国」とその下の柱も全部大国ということで、説明を聞くまで理解できない部分がありました。確かに未来という言葉は非常にいい言葉だと思っております、例えば「ウェルビーイングなまち長崎の未来大国」とか、そういったものがあればいいなと感じました。下の方の大国は、先程の説明を聞いて少し理解しましたが、率直に感想を話させていただきました。

## ○中島委員

私はこの大国というのは何を示すのかということが伝わるようで伝わらないなと。今あるところの資本主義社会における大国というイメージにどうしてもとらわれてしまうなと思って、たくさん量を安く売るみたいなイメージに捉えられるのが、そっちの方向なのかどうなのかというところを感じたところです。あと、未来という言葉は、すごく私は好きなんですけど、未来を感じるというのはどういう瞬間なのかということも表現できるというふうにも思いました。ネガティブな見方をすると、何となく未来というふうに言っておけばいいという先送りのイメージも持つてしまうと思うので、例えば今の子どもたちに、どんな長崎を目指すのかというのを宣言していくとか、そういった未来というのを。明日も未来であると思うんですね。未来という言葉はどう考えているか、デザインある言葉に、未来大国という言葉でいいかもしれないけど、補強が必要なのかなというふうにも思いました。まず以上です。

## ●大石知事

今いただいた意見で、確かになと思うところもあります。いろんな意見があっただけでここまで来た経緯を少しご紹介できればと思うんですけど。確かに、書き加える、補強するというのも考えたんですが、なぜ短くしたかという、まず、「未来大国」というセンターにあるコンセプトについては、あんまりごちゃごちゃ入れない方がいいんじゃないかというところに、いろんな紆余曲折があって落ち着いたと。確かに、大国とは何なんだろうという議論もありました。何を以て大国と言うのかと。非常に難しいんですけど、最終的にはあまりかっちりとしたものを決めない方がいいんじゃないかというところなんです。最初に挨拶の中で申し上げたんですけど、県民の皆さんが誇りに思うこと、前向きになるということが、私はこの旗印に求められるものだと思いますので、こうイメージするものはたくさんそれぞれが持っていていいと思うんですけど、前向きであって、プライドを刺激するように、プライド感を持てるようなネーミングにしたいなと。下にあるそれぞれの柱については、やはりクリアなイメージを描かないと、県民の皆様に納得していただけないという、そっちに向かって一緒に連携してやっていこうという気持ちにならないかなと思いますので、それについてはしっかりと書いていかないといけないと思います。先程お話いただいたように、それぞれの言葉に少し説明がつくイメージで、「未来大国」をぼーんと出して、「未来大国」に向かって頑張りましょうではなくて、そこに少し、あまり分量は多くしたくはないんですけども、思いとか哲学を書き加えるような、そんなイメージでいます。できるだけワードを減らして、うまく引

張っていけるような、キャッチーなものにしていけるように、皆様からもアドバイスをいただければと思っています。

## ○中島委員

大国というものに、みんなが自分事化できるかが一つ大事だなと思って。大国になりたいという、どこまでそれを皆が感じられるかというところも一つ。知事は、もしかしたら大国にしたいというのがあるかもしれないけど、みんながそうだなっていう自分事化の言葉になれるかどうかというのも一つ。これが駄目というわけではないんですけど、もう一つ何かあってもいいのかなって思いました。

## ●大石知事

ありがとうございます。私も話し合いの中で、それは本当に大切なところで、大国にしたいというよりか、私は大国に住みたいと思っていただきたい、誇りを持てるような場所になってほしいと県民の皆様思ってほしいなと思っています。ただ、おっしゃるように自分事としてやっていくには距離があるとか、ちょっととっつきにくい言葉だったらあまり意味がないと思うので。やはりプライドを刺激するような、長崎プライドというようなところで何かいい言葉があればなあという。もっとたくさんあるかもしれませんが、我々の語彙力の中では大国というところに集約してしまったところが現在の状況です。

## ○永田委員

これをみた時の感想を率直に申し上げると、私も「大国」に対して少し「もやっと」したのを感じました。知事のお話を聞いてなるほどと理解した部分もあるのですが、長崎がそもそも大国なのか、半島や離島が多いイメージと重なりにくい気がしています。それに対する対案はなかなか思いつかないのですが、直感的な感想で申し訳ありません。

## ○山本委員

山本です。皆さんが言われているように、私も、もやっとしたものがあるのは確かなのですよ。大国？みたいに思ったので。もう言わないでおこうかなと思ったのだけど、大国みたいになると、硬いのと、あと、この引っかかる何か何だろうという。引っかかる何かはよくわからないのですが、硬いのかなって思って、いろいろ考えてみたのですが、肥前の国となると佐賀も入ってしまうとか、壱岐と対馬は入らないとか問題があるなと思って。じゃあ、うどん県みたいな、カステラ県とか、きれいなワードがあればいいなと思うのですが。なかなか思いつかず今に至ったというところなのですけれども。大国は大き過ぎて自分事じゃないというか。

## ●大石知事

私としては、見た目がすごく大切だと思っていて、皆さんに聞きたいんですけど、もやっと感も大切なところ、はっきりとしたものではなくて、それぞれの解釈があっていいと思うし、議論の余地があって私はいいと思っていて、あとは見た目的に、例えば情熱大陸とか、見た目で引っ張っていけるとか、例えば街の中に「未来大国」のフラッグがソバーッと並んでるとか、イメージで言った時に「未来大国」と言ったら長崎県みたいな、簡単なイメージができていくのも大切なのかなあと思ったので。つまり、答えになってないですけど、もやっとしつつも、見た目プライドをドライ

ブしていけるような何かを掲げるのがいいのかなというふうには考えてました。何かアドバイスをいただけたら。

## ○村上委員

村上です。コンセプトはデザインだと思っていて、デザインは人によって受け方が全然違うと思っています。大事なのはリーダーである知事が言い続けられるか、しかも端的にというところが僕は大事なのかなと思っていて、自分事化というのはすごく僕も大事かなと思うんですけども、それは先程資料にあった、その下の部分で自分事化されるべきところなのかなという。僕ができてるかどうかは一旦置いて、リーダーは先の先を見据えていられることがすごく大事なのかなと。後で皆が「あ、そういうことだったのか」と言うくらいのことを言っていていいと思っています。僕も余白がすごく大事だと思っていて。コンセプトのところはデザイン的なところだと思っていて、それでいいと思います。皆さんが誇りを持って言えるような言葉であればいいのかなと。抽象的で申し訳ない。

## ○下川委員

下川です。よろしくお願ひします。大国のところで思ったんですけども、単純に「大県」なんじゃないかなと。未来大県。知事や皆さんのお話を聞いて、何かいい言葉がもっとあれば、皆おさまるのかなと思って、そのブレストといいますか、そう思いましたので、この5つの柱がそれぞれ大国ですので、何か世界190カ国みたいな感じで、その中心にあるやつ、国際連合とか、連合、連邦とかですね、これ大国じゃなくてもいいかなって思いました。この県とか大国の部分について、一つは土地とかエリアのところを意識して名前を作ると、都市とかシティとか連邦とかになると思います。人にスポットを当てて考えてみると、例えば、未来チームとか、未来集団とか。あとはサッカーですと未来イレブンとか。100万人ぐらいいるので、未来ミリオンピープル。人に焦点当てるという考えもあるかなと。あと一つが心ですね。先程知事もおっしゃっていましたシビックプライド。こういうところに心に当てて。我々の会社のモットーにもあるんですけども、パーティーを作ろうみたいな。パーティーってすごいいい言葉だなと思うんです。面白くしていこうという意味のパーティーがあります。あとは、チームという意味でのパーティーとか。もうちょっとやわらかくてしっくりくる言葉があるんじゃないかと。

## ○佐藤委員

コンセプトに「未来大国」という言葉が出てきたときに、知事もとうとう覚悟を決めたのかと。「日本を一気に変えるんだ。」という決意を非常に感じました。これから作ろうとしているビジョンの在り方、方向性の問題だと思います。

先程から出ている県民目線でどう見えるか、作っていくかについては、さっき話が出たと思います。ある意味、県や行政がリーディングしながらやっていこうということを考える視点で見れば、まさに「大国」で、まさに日本の西から攻め上がっていくように、日本社会そのものを変えていこうという決意を長崎が持つということを示すことになる。そんな風に思います。どっちか言うと、そっちが私は好きです。

結局、先程知事が言われたように離島を含むということで、日本の課題というのがかかなり先行的に出てくる。逆に言えば、そこでいわゆるソリューションを出していけば、日本のあらゆるところのモデルとして通用していく。それだけでも、ポテンシャルは持っているということを非常に感じ



ます。そういう意味では、決意表明というような形の使い方というのもあると思います。

あと、菊森委員が言われていた「未来幸福」。「幸福」が入るともっと良いなと思ったけど、漢字6文字は長すぎてね。学生募集とかでもよくあるんですけど、漢字はやっぱり4文字ぐらいがいい。

決意ということを示すことは、先程おっしゃったように、不確実性のところと最後のところをもっとわかりやすい言葉で表現していくのが必要だと思います。

特に、「旗印」という言葉が使われている。非常に興味深くて。前に立ってやっていく姿が見えてきて、非常に興味深い。

それから、ちょっと先走った言い方になるかわからないんだけど、3ページ目にある図を見てみると、大国がやっぱり領土の大国になっている。大国というような中でも、先程、下川委員や艶島委員が言われたように、何かもう少し別の言葉で、連合体じゃないけど集合体としてのものを作っていく表現にしていった方がいいのかもしれない。そうすると、未来大国というコンセプトに価値の宣言みたいなものがあって良いと思っている。

例えば、子どもを大事にする大国だったり、産業イノベーションを促すスタートアップに特化したりとか、何かそういった重点項目というものを一つの宣言みたいな形で表現していくやり方もある。

また、この共通する視点というところなんだけど、視点なのかな。これはあくまでツールなんだという考え方を僕はしている。これを実現していく、つまり、ビジョンを達成していくツールとして、デジタル、情報戦略、人材獲得とかを使っていくんだよというふうになるのではないかな。そんな風にやっていくんだよという。

知事の覚悟が聞けて良かったです。

## ○入江委員

大国をちょっとネットで調べていて、やっぱり大国というと大きな国というイメージが出ちゃいます。いろいろ調べていると立国というのがあるんですね。立国には「ある考え方・仕方で国を繁栄させる」という意味がありますけれども、観光立国というと観光の盛んな国というイメージ。例えば、子ども立国にすると、非常に子育てしやすい地域という感じ。イノベーションを目指す地域みたいな感じで、個別の大国は大国で良いんですけども、イメージとしては立国の方が近いのかなというふうに少し感じました。

あとは、この言葉。私は熊本県民なので、熊本県民は結構「肥後もっこす」といって意外とシビックプライドが高いというか、地域愛が非常に強い県民が多いんですけど、長崎の方々も、皆さんのシビックプライドが、この未来大国というキーワードとか、こういったところにどれだけ愛着を持てるのかなというところも非常に大事なのかなと思いました。言葉については「大国」というとすごく大きな国を目指す。先程中島さんがおっしゃっていた「大きいことが良い」みたいな感じもしちゃうと少し直感的に思った次第です。以上です。

## ○安部委員

安部でございます。このビジョンのコンセプトに「未来」というワードが出てきたので、長崎県に限らず、今は誰でも未来に希望が持てない。閉塞感があるということなので、知事のお考えとして、県民総意で、明日、すなわち未来が今よりも、過去よりも良くなる。より良い未来を作りたいという思いで、未来の次に大国というお話が出てきたと思うんです。けれど、「大国」というのは、

経済大国、軍事大国とか、そういう言葉のイメージがあるので、ちょっと「え…」という感じが若干するんですけども、実は「大」というのはワイドである、広げるという意味合いで、エリアではなくて、「今よりも広い」という意味で捉えられているのではないかなと。そういう意味で使えば、大国でもいいし、無限大とか、或いは、もう広がるという意味ではなくて、未来をもう今よりも特別なものにするのであれば特区とか。未来特区とかでもいいのかなと思うんです。「大国」の捉え方は、いわゆるエリアではないと、広めるワイド、未来を今よりもワイドにするというコンセプトの中で、その未来を広い未来にするためには、我々は子ども大国とか、色々ある部門でどういうことをするのかというのを一つ一つ並べていくという組み立てなのかなと理解をしております。以上です。

## ○楠本委員

いろいろ皆さんのお話をさせていただいた中で、この大国という言葉が、現状の長崎には、ちょっと大きいイメージなのかなというふうに感じました。

目指したいところは、「県民が幸せであって、誰もが住みたいと思うまち」だと思うんですよね。そうすると自然に人が集まって人口が増えて、人口流出も減るというところに繋がっていくと思うので。もう少し小さいイメージ、目指しやすい、住みたいまちナンバーワン！のような、そんな簡単なイメージできるような言葉にできたらいいのかな。これだという言葉はまだ出てきてないですが、そういう言葉がいいと思いました。

以上です。

## ●大石知事

ありがとうございます。先程、漢字4文字より長くなるとおっしゃってくださったように、漢字は増やさないように、文字は増やさないようにというところで4文字に落ち着いたところは確かにございます。

その中で「未来」というところで目指すんだというイメージを持たせて、後ろの2つの漢字には、みんながプライドを持てるようなものというイメージで二つ置いている。大国というのは非常にもやっとしていて、大国自身が持つワード、印象が合うのか合わないのかというのが、今の議論にあったように思うので、頂いた意見をもう1回整理して考えてみたいと思います。

あと、その中で私も聞いていて思ったのは、一番上のコンセプトと下のそれぞれの柱が同じ水準じゃない方がいいんじゃないかということも確かに大切な気がして。私は一番上の未来大国というのはみんながそれに向かって進むんだとプライドを感じて行くというようなものになって、下はそれぞれの分野で優れているということで同じワードを使っている。

今使っている後ろの2文字に持たせた意味合いがそのまま下に降りてきただけのことなんですけれど、もしかすると議論の中で、下の柱の水準をもう少し下げるのか、上を連邦という言葉とか、連合とかありましたけど、上の水準を上げるみたいなものでもいいのかもしれない。さっき立国という言葉がありましたけども、子ども立国とか立国シリーズで大国を作るとかもいいと思います。今日いただいたアイデアを精査していきたいと思います。

ありがとうございます。

## ●事務局（内田 政策企画課長）

ありがとうございます。一旦、この一つ目のテーマ、コンセプト「未来大国」については、このあたりで終了させていただきたいと思います。

会議冒頭から一時間経ちましたので、ここで休憩をとらせていただきます。

なお、大石知事については公務がありますので、ここで退席させていただきます。

## ●大石知事

私も今日の議論は再度しっかりと振り返らせていただいて、本当に県民の皆様が同じ方向に向いて、明るい気持ちでプライドを持ってやっていけるように、新しい良いものを作り上げたいと思っていますので、この後も続きますけれども、どうぞよろしくお願いします。

ありがとうございます。

— 休憩 —

## ●事務局（内田 政策企画課長）

それでは、第二部になります。未来大国の主な柱、ありたい姿について、議論を進めていきたいと思います。

今後、本県が注力していきたい主な分野として、連携も意識しながら、5つの柱を立てることを考えてございます。県民の皆様が明るい未来、期待感を抱いて、そこに取り組みを進めていただけるようなありたい姿を柱ごとに描いていきたいと考えております。この柱の立て方でありますとか、ありたい姿を描く上で、整理するべき視点、資料でいきますと、3ページ、4ページになりますけれども、そちらについてご意見をいただければと思います。

議論については、主な柱そのものでも、細かいキーワードでもどちらに対するご意見でも結構ですし、コメントでももちろん結構です。

## ○艷島委員

長崎県総合計画チェンジ&チャレンジ2025の内容と今回の5つの柱を見比べてみたときに、例えば、産業を育てようということが現在の総合計画ではあって、今回はそれがどこに入っているかというと、食に入ってみたり、イノベーションの言葉で括られているというのが冒頭にご説明があった中で、産業をしっかり育てていくというキーワードが、今回なくなってるような気がしたというのが一つの感想です。

例えば、食の大国と言われても、ちょっとわからない。改めてこんな話をしたくはないが、例えば、お魚の業種が多い長崎を目指す。魚種が多いからどうのこうのではないですが、もうちょっとわかりやすいようなコンセプトが必要と思いました。

あと、KPIとか具体的なものはあまりなくていいんだろうと思うんですけど、ないのであれば、それをイメージできるような言葉にした方が良くかなと思いました。

## ●早稲田 企画部長

ありがとうございました。委員がおっしゃったような感じで、産業分野はイノベーション大国で、産業労働部でやっているような製造業ですとか、スタートアップですとか、そういったものも入ってきます。食で言いますと、農林水産の産業を育てるといのが入ってきます。最初の案では、お

魚大国といったネーミングや、農業と林業を併せてアグリン大国というのがあったんですけども、冒頭知事もお話ししましたが、合体させてより融合させていくようなイメージで、この大国というのを置いて、その下に、例えばお魚であったり、農業であったり、イノベーションであればスタートアップだったりというような形でやっていこうという意味合いを含めまして今のような形になっています。今後、そこをどのようにわかりやすく示していくかというのは、今のご意見も踏まえてまた考えていきたいと思えます。

## ○菊森委員

はじめ5つの大国のサブタイトルを拝見した時に、ちょっと違和感があったのは、先程ご発言がありました、経済とか産業とか、力強い基盤を作っていく観点がどこに入っているんだろうといったところでした。分類、分け方についてもいろいろ議論はあるかと思うんですけど。子ども大国をはじめ5つの大国の中に、経済・産業の分野は、みっちり入ってくるんだろうというふうに私は理解を変えまして、特に色彩が強いのはもちろんイノベーション大国ですが、切り口を変えたことによって、食の大国にも食材とか食提供のイノベーションがここに入り込んでくるし、生産、加工、流通というイノベーションも入ってくるし、食のメッカとしての離島を活かすという、離島・半島のイメージもここに入ってるかなというふうに感じました。

健康大国についても、健康増進、地域の方々健康増進にも繋がるんですが、健康関連サービス産業、医療介護産業、これは長崎県がこれから注力していかなきゃいけないところだと思っているんですが、最終的には健康寿命を延ばすというところが健康大国の大きな目標になるんでしょうけれども、その中に経済・産業が入ってくるのかなというふうに理解を変えました。

ちょっと弱いと思ったのは交流大国。私はこの長崎県における交流大国は、ホスピタリティーと人間性溢れるコミュニティで構成された大国のことを言うんだろうというふうに読みかえまして、その時にやはり、長崎県らしいグローバルな目ということの必要性をもっと強く言わなければいけないんじゃないか。例えば、国際機関、国連関係機関の誘致。国際交流だけじゃなくて、平和をベースとするような国際交流がもっとあってしかるべきだろうというふうにも感じました。

最後に子ども大国のところですけども、ここはもう県民の願いであります。未来を担い、切り拓く人材の大国にしていかなきゃいけない。それが自分たちの地域の将来を形成してくれる可能性が一番高いし、そのためにも、子ども大国をグローバルなモノにしていくという観点が必要かなというふうに思いました。

未来志向のこの全体のコンセプトのまとめ方の中で、この5つの軸を打ち出してもいいんでしょうけれども、経済・産業の部分は入れなきゃいかんだろうなということを感じました。以上です。

## ○安部委員

質問なんですけど、主な柱の選定理由について、県政の基軸に位置付けている子ども施策がまずはあるんですね。そうでありながら、真ん中に書いてあるんですけど、他の4つの大国とまるで同じ位置にあって並列的にあるんですけど、子ども施策が基軸ということは、この図からどう読み取ったら良いのか教えていただきたい。

## ●事務局（内田 政策企画課長）

柱を選定した理由の順番の付け方として、子ども施策は、知事の一丁目一番地の施策なので選びました。そして、一つだけというわけにいきませんので、どういった分野が考えられるかと言った時

に、交流、イノベーション、食、健康ということで、この4つがより今後より重点的に注力していきたい分野ということで選びました。

○安部委員

ということであれば並列ではないということでしょうか。こども大国は1番で、後の4つの大国は並列でしょうか。

●早稲田 企画部長

子ども大国も含めて、並列で結構です。

○安部委員

すいません。そこがわからなかったもので。

●早稲田 企画部長

それをリングのオレンジのところで囲んでいるという形。

子ども大国は、真ん中の基軸ということでおきますけれども、その他の部分も並列的に置いているということになります。

○安部委員

それを進めるための視点がこの三つということですね。デジタルを活用するとか、情報発信するとか、人材の確保・育成するという理解でよいですか。

●事務局（内田 政策企画課長）

はい、そのとおりです。

○中島委員

私からは全体の構成についてお話ししたいと思います。

一つ目ですけれども、この資料に言及がないもので、人口をどう捉えるのかというところについてお伺いしたいと思います。人口というのはつまり、人口減少が加速化しているという話が前提にありましたけれども、人口はすべての掛け算になるものだと思うんです。各大国にも、「人口×○大国」という要素になると思います。この人口は、すべての掛け算であることなので、人口をどうするかというところには、何か方針を一つたてるともう少しわかりやすくなるのかなと思います。

人口は少ないよりは多い方がいいよねという考え方はあるんですが、日本の人口が減っているというところ、子どもの数が減っているということ、移民に関してどうするのかという考え方や、関係人口のような人の流れをどうするのかといういろんな考え方があると思います。増やせば何でもいいというわけではないですし、少ないというところが逆に価値を生み出す可能性もあると思います。そういう論調が最近出てきていると思うので、まずは、人口についてどうするのかというのがあっていいんじゃないかなというのが一つ目です。

二つ目が、この記載されているキーワードが、全部やる、やる、やるという感じの「足し算」のものが非常に多いなと思っていて、「やらない」というのもあっていいんじゃないかなと思いま

す。例えば、一次産業で採れた農作物は、できれば他の地域へ運んでいろんな地域の方に食べていただいた方がいいかもしれないですけど、「外のたくさんの人に食べていただくのではなく、長崎に来てもらって食べていただくという方向にもっと振っていく」というような、「やらない」と選択する引き算のような考え方があってもいいかもしれないです。さらに掛け算、この横の繋がりという仕掛けみたいなものですかね。子どもの事業は、例えばイノベーションとどうふうにするのか、多分考えてらっしゃると思うんですけども、そのあたりの掛け算の軸も何かこの図表で上手く表せるといいなと思ったのが、「足し算」「引き算」「掛け算」。

3つ目は時間軸の考え方で、未来について議論しているこのビジョンになるんですけども、例えば、子ども大国は比較的長期的な目線のものだと思います。でも、交流大国は比較的短期的だと思います。もしかすると、本当に今日、明日、来週のインバウンドに何か影響を与えられるぐらいインパクトがあるものが考えられるかもしれない。イノベーション大国は比較的中期で、食の大国は短期かな。健康は多分中期なのかなというふうに思います。この構成要素もおそらく重要なポイントになっていて、長期的に投資していかなければいけない子ども大国の領域が、ずっと国全体で放置され続けていたと思うので、このまま普通にそれぞれやってしまうと、やっぱり優先順位低いよねと、目に見えて成果が出ないねというふうになりがちなので、ここを先程の掛け算のところで、うまくこの長期に目線をおけるようなものを何か考えたらいいいのかなという時間軸の考え方というのが三つ目です。

以上です。

## ○永田委員

今回の柱で私が関心を持つ健康を叶えるためには、食、イノベーション、交流いずれも関わってきます。逆に食を生かすためには、イノベーション、交流、そして健康ともつながってくるでしょう。すなわち、それぞれの協働関係が成り立つと思います。どこかの先進的な事例や経験を外挿することで健康、食、イノベーション、交流の未来像は描きやすいように思います。

一方で教育は成果が現れるまでに時間を要するので、時間軸という点でもどこかの成功例を当てはめればすぐに成果が得られるものではありませんし、プロセスが大切になります。かといってただ結果を待っているばかりでは手遅れにもなります。したがって、他の柱と次元が異なるかもしれません。

## ○村上委員

僕もこういったことを結構考えていて、いろいろ提案させてもらって、進めさせてもらっているんですけども、その時にいつも考えてるのは、ストーリーとヒストリーの2つ。このヒストリーは、先程中島さんが言われていた時間軸というところですか。それにプラスしてストーリーというのがすごく大事なかなと思っています。この5つの柱がどう関係して成り立っていくのかというところ、これができないとおそらくなんですけども、先程議論したコンセプトのところと、次の議論である共通する主な視点というところが難しいのかなと思っています。

ここのストーリーとヒストリーができ上がると、コンセプトとその次の共通の視点というところができてくるのかなというふうに思っています。コンセプトはデザイン的な部分で、この下のレベルで説明していくんだと、わかりやすくというのはまさにこのストーリーで伝えると、端的にわかるようになるかなと僕はいつも考えていて、提案させてもらっています。

基本は、一緒なのかなと思っていて、そのあたりが組み合わせられて説明できると、納得感があると思います。

## ○山本委員

私はこれを見た時に、子ども大国の中の子どもを中心としたコミュニティの形成が上手くいけば、他のものと結構どれとでも連携が取れるのじゃないかなと考えていました。その連携をとりつつ、例えば、交流の中ではこういうことに重点を置いてやっていくとか、交流の中のいろいろな連携をとったり、交流と食で連携をとったりとかできるのかなと考えていて。

資料を見ていたら、例えば、食の大国のところでは、災害も今どんどん大きくなってきていますし、できれば食料自給率100%を目指すぐらいの何かがあっても良いのかなと思っています。100%も作るだけではなく、加工から消費まで含めて、どれも県内で消費できることが望ましいなと思っておりまして。小さいことを言うと、野菜とか、県外に出荷するのは上等なもので結構高値で売っていますが、そういう上等で美味しいものを地元でも消費できればいいなと思っています。ただ、都会価格で地元の人が買うかという、やはり高すぎて買えないので、地元価格と県外価格に分けられないのかなと思ったり。地元で消費する部分が安いとなると、地元に来てもらったら安く手に入るということで、交流にもつながるところがあると思います。あと、野菜を県外に出して県外でカットした野菜を高値で買うような無駄なことがあるので、そういうカットを専門にする工場や粉末にする工場なども県内に欲しいなと思っています。粉末にするといろんなものに練り込めるので、例えば、麺づくりが盛んな島原半島では麺の方との連携もとれるのではないかと思います。そういう無駄な加工コストを出さないよう、細かい加工も含めて充実してほしいなと思いました。

ありがとうございました。

## ○下川委員

こちらの資料の内容については、すべて完全同意と思っています。

あとは見せ方のところで一つ思ひまして、1つの未来大国というのがありまして、5つの大国がありまして、更にそれぞれの大国に5つぐらいに要点を絞って重点施策みたいところで見せるとわかりやすいのかなと思います。もし必要であれば、更に5つぐらいをカテゴライズしてもいいのかなと思ひまして、短期、中期、長期とか、カテゴリごとに分ける。

県としてできるかどうかかわからないですけど、一つの分け方として、現実的な未来と、ちょっとぶっ飛び未来というか、めちゃくちゃトライしますというか、できなくても怒らないでねぐらいの感覚で空想のようなところでもいいのかなと思うんですけど。例えば、子ども大国だと、これがぶっ飛び未来という嫌ですけど「人口増やします」とか、交流大国だったら「世界一人気のスポットを作ります」とか。そこを考えていくとちょっとワクワクする感じなのかなとちょっと思ひました。

## ○佐藤委員

資料を見せてもらって、食のところに農林業、漁業が入ってくるということだったが、産業の部分がないなと。外食を含めた「食」、しかもそれが交流、観光とリンクしていくなれば、地元のおいしい魚を提供できるお店をどう増やしていくか。その辺のところの実際的な部分が足りないなという感じがしました。そういう意味で言うと、横断的にとっている部分は難しいというイメージがしづらかった。基本計画や行動計画を作ったこともあるんだけど、やっぱり時間

軸、一つのいわゆる短期、中期、長期という分け方でマトリクスみたいなものを作っていく。そして、そのカテゴリで分けた中でそれぞれの柱を掛け合わせていく形もあるだろうし、さっきの横断型というのは県の全部局でマトリクスを作っていくとそこで初めてプロジェクトというのが成立するという。そういう作り方というのもありだというような気がします。

まだ話が斟酌しているというか、方向性が見いだせない感じがしますね。だから、その辺をやっていると、村上委員の言ったストーリーができあがっていくような気がしている。

旗印という言葉は好きなんですけど、こういう旗印の下に子どもをこういうふうに育てていこうねとすると、SDGs、いわゆるフードロスといったものと地域内循環のストーリーが作れる。それをするための補助をどうするか。その手段として次のステップで出てくるDXとかの新しい手法をどうやって使っていくか。そういったストーリーを描きやすくなる。もう少しキーワードを整理していてもいいのかな。

交流大国のところでも、観光の部分とか、さっきの大国という言葉のメッセージを出していくということとか、出島で開けたという地政学的なポジションを考えたときに、もっとグローバルな視点で国連機関をもってくるというぐらいの意気込み、見せ方というのは、実際にそれをもってくるんだと言ってもってきた時に、県民への説得力が出てくるしわかりやすい。長崎に中国の総領事館があるということは実際すごく効果があるでしょう。その辺のことを考えた時に、よりもっと積極的に出島をアピールするというのであれば、出島を復元したところに国連機関が入ってくるとか、そういったようなことを展開していく。そうするとさっきのストーリーというのが出てくると思います。

## ○入江委員

入江です。3月までは佐世保高専のアントレプレナーシップ関係だったんですけど、4月から熊本大学のイノベーション推進機構につきまして、ただ、佐世保高専にも関わっています。その中でもイノベーション推進機構でイノベーションをやっている身として、イノベーション大国を深堀りさせていただきます。

まず、書いてあることがものすごい一般的で、先程中島委員の話にもありましたが、いろんなものを羅列してきたなという感じが正直します。

例えば、下から4番目のスタートアップの集積とか、本当にそれできるかな。今のままでは、できないは別にしても、ありがたい姿なので書いててもいいんですけども。いろいろ一般的なことが書かれ過ぎていて、もうちょっと長崎らしいとか、長崎らしいイノベーションは何だろうというところをもう少し深堀りした方がいいのではと思います。ありがたい姿なのであんまり小さくしちゃうのもよくないかもしれないんですけども、ここに書いてあるのは、どこでも、やっているようなことでもあるので、長崎らしい、長崎はそこだよねというようなイノベーションを起こすような形があるといいなと少し感じました。

イノベーション大国となると、本当にイノベーション大国になれるのかという……。マイナスのイメージの意見で恐縮なんですけれども、現実的にできるところで、みんなが「そうだよね。それだったらやれるよね。」というようなありがたい姿関係があるといいなと感じました。

## ○楠本委員

すごくいいキーワードがいっぱい出てきたと思うのですが、時間軸、ストーリーとか、その辺のことを、こ



の5つの大国とうまく絡めていくことが大事かなと思います。長崎の特色を活かして、県内でまず盛り上がらないと、観光とか子どもの未来とかに繋がっていかないと思うんですね。

小さい目標と言われましたが、食とかに関して言うと、例えばブランド化して輸出拡大するとか書いてありますが、先程どなたかおっしゃられたように、長崎県のを長崎県内で消費するみたいに。ちょっと小さい話に聞こえるようですが、まず県民が盛り上がっていくことが重要だと思います。

時間軸とか優先順位とかストーリーとか、まず長崎県がどこから取りかかっていって盛り上げていくか、そして観光や子どもの未来というところに繋げていくよというイメージが県民に伝わるようにすることが大事だと思います。以上です。

## ○安部委員

5つの柱のキーワードの切り口というのがどうしても、県内の産業育成、経済力をどうやって上げていくかという視点が、この中から読み取れないと思うんですね。あと、子どもにいいことしてあげたり、いろんな交流するようなイベントを誘致したりとかといっても、長崎自体の経済力というか、いい産業、強い産業がなければ、それは絵に描いた餅に過ぎないと思うんですね。

もう一つ、課題先進県とか課題がいっぱいある県と言うのであれば、その課題というのは、人口が少なくなっていく、そして産業が先細りになっていく、それをどう解決するのかということがメインに出てくるような将来構想にしてもらいたいと、一県民としては本当にそう思うばかりなんです。

先程、いろんなことが書いてあるけど、どこでも同じじゃないかと言われていましたけれども、まさにそれで、長崎県らしさというのが、このワードの中のどれがそれにセレクトできるのかということもちょっと考えたりもするんですけど。その辺のところを、キーワードのセレクトのあり方ということについても、我が県らしさ、我が県の課題を解決していくためには何が一番この括りの中で必要なのかというような観点で書いていただきたいなど。これは私の願いなんですけど。そういうふうに思いました。以上です。

## ○村上委員

今ふと思ったんですけども、県民の方もそうなんですけども、県は市区町村といろいろ連携していきなきゃいけないじゃないですか。その部分が先程の横串にと冒頭に知事が言われていた部分にすごく関係してくるんじゃないかと今ふと思ってですね。

その部分も何かここにあるべきことなのか、また違うレベルのところにあるべきことなのかというところが、すごく今ふと気になって。多分県だけでやっても難しくて。

僕はいろいろな所を回らせてもらっていて、これほどユニークな地域がいっぱいあるところはないなと思って。各地がいろいろ取り組んでいるということと上手く連動できるイメージも、要はストーリーのところに入ると、市区町村の方たちも今こういうふうな取り組みを県が考えているから、この部分は一緒にできるんじゃないかなというような繋がりになっていくと、そこが直接県じゃなくても、市区町村単位で県民の方に届くような取り組みをできるのかなということを思ったので、それを入れられてもいいのかなと思います。

## ●事務局（内田 政策企画課長）

ありがとうございます。ぜひ、その視点を取り入れて考えてみたいと思います。

## ●早稲田 企画部長

委員の皆様から色々ご意見をいただきましてありがとうございます。このキーワード、それから、主な柱の中で、人口を踏まえてですとか、掛け算、足し算、引き算といったところはまさに連携に関わってくるかと思えます。それから、このビジョンは10年先を見据えての策定ということになっていますけども、その中でも、時間軸をどのように捉えてやっていくのか。そして、各施策をこれから主な柱の中に埋め込んでいくにあたって、コンセプトに結びつくようにどのようにストーリーを作っていくのかということについても検討を深めてまいりたいと思います。

また、ご意見の中にありました「食」の中で、地産地消が交流に繋がったり、カット野菜や粉末にといったところも、やはり連携の中での、今までの一つの施策だけではとどまらない産業化の部分になってくると思えますし、また子ども大国を支える上での産業の力強さというのも課題解決の中でどういう姿を示していくかというのも重要な視点であると思っておりますので、そういったことも含めて今後さらに議論して、またお示しできればと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

### ●事務局（内田 政策企画課長）

以上で、大きな2番目の議論を終えたいと思ひますが、よろしいでしょうか。

それでは最後、3番目の各柱に共通する主な視点について議題させていただきます。繰り返しになりますが、ビジョンの実現に向けて、全分野の取組みに必要な視点として主に3つを掲げています。先程、佐藤委員からツールというようなお話もございましたけれども、この共通する主な視点についてご意見をいただければと思ひます。

どなたかご意見のあられる方、いらっしやれば挙手をお願ひします。

### ○艶島委員

この柱に対する3つの観点、デジタル技術、情報発信、人材については全く違和感ないと思ひています。その辺のツールを使いながら、各施策をやっていかないといけないんだろうなというのは率直な気持ちではあります。ただ強いて言えば、SDGs、ESG、カーボンニュートラルといったものを無視していいのかということと、その辺はあってもよろしいのかなと。

もう一つ、村上さんがおっしゃったように、県が発信して県民の皆さんや市町の皆さんに対しても示して、共通して連携しながら進めていく中で、やはり21市町の多様性というのがすごくあると思ひます。この間の1回目の懇話会でも多様性というのがキーワードになっていると思ひますし、長崎の非常に良いところでもあるのかなと思ひます。それで、この具体的ないろんな大国を示していく中で、基礎自治体の方に動いていただかないといけないというなか、納得感を持っていただかないと連携して動かないかなと思ひます。

それは本当にユニークな長崎、いろんなものがあって例えば付加価値が高い業種、例えば一次産業が強いところだったりとか、人口減少とか言いながらも効率が非常に高いとか、付加価値係数とか特化係数というのは多分自治体ごとに持っていらっしやると思ひるので、そこに対してどういうふうなアプローチをしてるかというのは、逆にフィードバックを受けながら、そこをちょっとくすぐるような、一緒になって連携していくようなキーワード、そういったものを示した中で最終的な落とし込みをされた方がいいのかなという感じがしました

### ○菊森委員

共通する視点についてのこの三つについては、全く異論はないんですが、先程、艶島委員の方からもご指摘ありましたように、こういったことを考えていく根本にあるSDGsという考え方がどこまで浸透し

ていくのかというところが一つ大きな論点になると思うのと、その前提として、人間の尊重ということが、子ども大国にしても、健康大国にしても、交流大国にしても必要になってくる。それらに共通する視点のうちの一つなのかなということを感じました。それが経済とか環境とかウェルビーイングに繋がっていくのではないかなということで、これを一つにしたような標榜があってもいいかなというふうに思いました。

それから、デジタル技術の活用というのは、デジタル技術だけではなくてGX化というか、グリーンテクノロジーといいますか、そういった大きな世界的な潮流を活かすようなそういう県政であって欲しいということがあるので、共通する視点の中にDX化、GX化という考え方を入れてもいいのかなと思いました。

それから、人材確保・育成の問題というのは、人を集める、育てるの両面がないと上手くいかないと思いますので、これはもうまさに書かれたとおりかなというふうに思いました。

この戦略的情報発信とブランディングについては、これはもう言うまでもないことで、県が発展するためには、市町が発展するためには不可欠な要素なんですけど、マーケティングの考え方ということは意外に行政の中で今まであんまり議論されてこなかったのを、視点を変えて、やはり行政も世界に打って出るようなマーケティング戦略というのを作っていくんだという、そういった新たな視点、新たでもないんですけど、視点が欲しいなど。そうでないと県が強くなっていかないと感じました。感想も含めてですけど、以上です。

## ○村上委員

村上です。ここで必要なのは、何となく姿勢とマインドかなという気がしています。例えば、今挙げていただいている分は、先程言われたようにこれはもう絶対必要というか、皆さんアグリーとっていて、これに対してどういう姿勢、マインドで臨んでいくかということを示すことで、取り組み方や連携の仕方というところに繋がっていくのかなという気がします。例えば、デジタル技術をどういう姿勢、マインドで使っていくのかという、その姿勢とマインドが、どちらかというところのフェーズというかレベルではすごく大事になってくるのかなという気がしています。ちょっと具体的じゃなくてあれなんですけど。

## ○永田委員

共通する視点としてあげられているキーワードの中で、育成に関係するキーワードはリスキリングだけになるのかもしれませんが、教育の視点が少し乏しいと感じました。技術シーズのように他の地域にあるものを長崎にただ持ってくるのではなくて、長崎の地で育てるマインドやプロセスを育む風土が特に教育の分野では大切だと思います。県全体のスローガンはどうしても県内の均てん化に向かいがちですが、長崎の強みである多様な地域性を活かすことも教育や育成において強みに繋げてもらいたい。単にリプレイスするだけではなくて、そこで育てるというマインドを多くの住民が持つ地域こそが次の世代に生き残ると思います。

## ○下川委員

私が運営してる会社は、SNSのプロモーションとかマーケティングを専門にやっているところもありますので、戦略的情報発信・ブランディングのところに特化してお話したいと思います。

一般的に、行政は作って終わりというような問題点がある場合があると思うんですけど、どう届けるかを考える時に、SNSでブランディングとアルゴリズムのどちらもマストですという話をよくするんですね。アルゴリズムというのは、それぞれのSNSとかツールの中で、どうやったら人に見てもらおうかといったルールですね。その部分をしっかりやりましょうというような話をしてるんですけど、そういうテクニカルな部分、

その力をぜひ活用していただきたいなと思っております。

その一つが、自分達だけで発信する必要はないというところで、いろんな人を巻き込んで、一般ユーザーとか企業さんとかにどんどん発信してもらえるような仕組みを作りましょうというようなところもあると思います。

例を挙げさせてもらおうと、8月9日の平和の日。これもう我々が何もしなくても、皆さんが自分達で発信しているようなところがあると思うんですね。東京に行った人が、11時2分に何もしてなかったら、今長崎ではサイレンが鳴っているよみたいなことを言ったりとか、長崎では黙とうしているんだとか、我々が何もしなくても発信してくれる。こういうふうな文化を作ることができたらいいなと思っております。例えば、長崎の魚は美味しいねと。みんな北海道というけど、長崎の魚種は多いんだよと自発的に喧嘩するぐらいの感じで言ってもらったりとか、そういうふうなものをできるような体制を作って欲しいなと思います。

これまでの県の取り組みでいうと、長崎の変。これは結構うまく巻き込んだかなというところはあります。いろんな意見はあると思うんですけど、巻き込めたという点ではすごく良かったかなと。専門用語でUGCといいますけど、ユーザーが作っていくコンテンツ、そういう意味では、長崎の変はうまく巻き込めたのかなと思います。

いろいろと今後もやっていくと思うんですけども、一般ユーザーや企業の方が自分達でどんどん発信していくという仕組みを考えると、どんどん発信の効果が上がっていくのではないかと思います。

## ○佐藤委員

佐藤です。僕が最初に、これツールでしょうという言い方をしてるんですが、ここに書かれてるものを見ると、ツールとしての目標なのか、アウトプットとしての表現なのか、どっちの表現をされてるのかなと。

ツールという意味合いていくと、村上さんと多分近いんですが、結局、道具をどういうふうにするかという話ですね。例えば刃物を変なふうに使えばやばいけど、料理に使えばいい道具だと。だから、どういうスタンスなり姿勢、それをどう活用していくかというところがもっと必要な気がしていて、それが最初に言った大国のところで宣言という、私たちはこういう目的で何かしていこうとするんですよというところに繋がっていくことだろうとイメージしながら聞いていました。

その中のキーワードというのは、前回の意見の概要の、ビジョンを検討する際のキーワードとかいうところに出てきている。逆に言えば、そういうキーワードを取りまとめていくと、さっきの話じゃないけど、結局、当たり前だけどSDGsに落ち着いちゃうねみたいな話になるかもしれない。でも、そういった、どういうスタンス、マインドで何をしていくのかというのがもっと出てくると、もっとわかりやすくなっていくんじゃないか。

ここで議論しろと言われても難しいと思ってる。何かここに書かれてるキーワードというのは、何かそれを使ってこういうことやるという結果なり目標なりで、そういったもので表現されてるのかなと思いました。以上です。

## ○山本委員

人材確保・育成の分野のところで、何かこうぼんやりしているなと思いつつ皆さんの意見を聞いていて、教育というところをあんまり打ち出していないところがモヤッとしていたのかなと私なりに先程腑に落ちたんですけど。人材確保・育成の部分に、今、長崎県で何が困っているかという課題を洗い直したときに、この分野の教育が必要だよなというところが多分出てくると思うんです。そういうところを、何か一個でもいいから、できるできないは別にして目玉に持ってきてもいいのかなという気がしています。

例をあげると、看護師が不足しているという問題が長崎県には長く続いていて、私から見ると、看護師が不足しているのであれば、看護師学校を作ればいいのと思うのです。それで、そういう質問をしてみたことも他所であったのですが、正看護師を育成するような学校を作るのは無理だと言われて終わってしまったのですが、今は他所の先生とネット上でつながるということもできるので、県内に正看護師を育成する学校を一個作って、他県からも学生を呼び込めるようにするとどうかなと考えています。結局、県内の学生で正看護師になりたい方々が県外に行ってしまうと帰ってこないというのは、学校の近場の実習先の大きな病院に就職するとかいう問題もあると思うので、長崎県内に学校を作って県内の病院で実習できれば、そこに居続けてくださる方も出てくるのじゃないかなというのを考えていまして、そういう課題になっていることを解決する方策のような、教育だったら教育分野の何とか、そういうものも何か考えてみてもいいのではと思いました。

## ○安部委員

この共通する三つのキーワードは本当はないといけないことなんですけど、子ども大国以下、5つのありたい姿、大国というネーミングでやっていくものとどう絡むかということ。例えば、デジタル技術を子ども大国の中でどういうふうに活用するのかというマトリクスを書いていくとわかりやすいのかなと思いました。これが漠然としているというのは、デジタル技術の活用はこういうことですよと思いつくことをつらつらと書いているからだと思うんですけど、それぞれの大国とどう絡んでくるのかという書き方をすると、より具体化されるのではないかなと思うんですね。

こういう建付けであれば、なおさらそれぞれの大国に対して三つのワードをどう効かせるのかということ構想していただかないと、これは行政の方々が納得するだけじゃなくて、広く県民に共通認識を持っていただくために作るわけですから、わかりやすく説明するためには、そういうことも必要ではないかと思いましたので、よろしく願いいたします。以上です。

## ○中島委員

私は、この三つのキーワードの中で、誰がやるのかの観点というところももうちょっと出てこないかなと思いました。

例えば、戦略的な情報発信というのは、よく外の人に任されるケースがあると思うんですけど、自分達で自分達の良さを発信して、それがどういうふうにしたら、反応が良かったり悪かったりするのかなというのは、地域の中に、長崎の中に蓄積されていくべきもので、それが例えばさっき知事が最初の方におっしゃられた、皆に前向きになっていく要素になってくるんだろうというふうに思います。

なので、地域の中の人ややったほうがいいことと、地域の外の人に関わってもらう、もしくは、場合によってはお任せして協業してやったほうがいいことというのがあると思います。なので、そこは整理して考えてもいいかなと思います。

例えば、さっきの看護師さんの話じゃないですけど、頑張ってる人であればあるほど、もっと学べる場所に行きたいと思って外に行く人も出てきてもいいですし、それは行ってもいいとは思いますが、長崎の地域の中で頑張っている人達が、地域から離れている外の人と一緒にできるというようなものが、この共通の視点の要素としてあってもいいのかなというふうに思いました。それが、誰がやるのかという観点の話です。

もう一つは、この戦略とデジタルと人材の確保という話で、戦略というところの情報発信とブランディングというのは、やはり基本中の基本の考えを整えるというところで、デジタルはある意味、手段だったり、

効率だったり、生産性だったりというところだと思います。

人材確保・育成というところは、その質をどう上げていくのかとか、あとはまさに生きがいのようなところになるんだと思うので、ここの言葉が私の中ですごくぼんやりして、すごくもやもやしてしまっているところであったんですけど。これをただ、高齢者の人に仕事をあげましょう、女性が活躍できるようにしましょうみたいな感じでやっても、是非そうして欲しいというふうに当事者が思うかどうか、私がこの当事者になった時にそうなりたいと思うかどうかということも、もう少し、生きがいになるかどうかとか、前向きになれるかどうかということの観点がないと、この人材確保・育成という項目を入れても乗っかれないなどというのが、要素としてすごく大事な部分だなというふうに思いました。

ちょっとこの議論は私にとって難しかったです。ありがとうございます。

## ○楠本委員

私もちょっと気になったのは、人材確保・育成のところですね。デジタルとかブランディングとかというのは、長崎県内にも結構長けた方はいらっしゃるんじゃないかなと思うんですけど、人材確保・育成という部分は、誰が、どのようにということを考えると、ちょっと弱いと思います。具体的に産業の活性化とか地域活力を維持するためには、どんな方がどんなふうやっていくのか、高齢者や女性の活躍はどのようにするのか、結構時間がかかります。もう少し具体的に詰めていく必要があると思います。

## ●早稲田 企画部長

委員の皆さま、貴重なご意見ありがとうございました。この共通的な視点のところで、姿勢、マインド、取組みや連携の仕方はどのようにやっていくのかといったところですか、SDGsやDX、GXなどの大きな視点を入れるべきではないか、それぞれの大国との関係性をマトリックスなどを用いて具体化した方がよいのではないかと、誰がどのようにやっていくのか、情報発信ではアルゴリズム、どのようにしたら人に見てもらえるのかといったところの視点を持っているのかというような、いろいろ多岐に渡ってご意見いただきましたので、次回の懇話会までに、またさらに庁内でも具体的な方向性ですとか、いただいたご意見を踏まえてどう考えていくかといったところを検討してまいりたいと思いますので、引き続きよろしくお願いいたします。

## ●事務局（内田 政策企画課長）

以上で、各項目の議論を終了したいと思いますけれども、せつかくの機会ですので、全体を通して何かあれば、ご意見を頂戴したいと思います。

## ○村上委員

ここで今話したことは、具体的にはどのような形でまとまるのでしょうか。

## ●事務局（内田 政策企画課長）

コンセプトやスローガン、大国ごとのありたい姿、その具体例、ありたい姿の施策の方向性などを冊子などにまとめることを考えております。

## ●早稲田 企画部長

県民の方々にメッセージ的に届けるために、知事の方も、よりわかりやすく、イメージ図ですと

かを用いた形でやりたいというのを念頭に置いております。

#### ○村上委員

わかりました。

#### ○入江委員

懇話会は3回だと聞いていますが、あと1回、次回はどのような内容をお考えですか。

#### ●事務局（内田 政策企画課長）

今回は、施策の方向性等も含めたビジョンの全体像をお示しして、それについてご意見をいただくということを考えております。開催の時期は、こちらの作業もございますので8月頃を考えています。

#### ○菊森委員

今回の資料にもお示しいただいていたように、今やってる議論というのは、あくまでも長崎県総合計画の一部見直しということですが、もしビジョンのこのストーリーでいくなれば、総合計画の政策体系をかなり見直すことになる可能性もあると思うんですけど、総合計画の体系との関係で、どのような表現の仕方になるのでしょうか。これはこれで一つの政策会議になっていて、立派な体系になってると思う。それと今回の見直しをどのように表現していくのかという点について教えていただけますでしょうか。

#### ●事務局（内田 政策企画課長）

資料1の1ページ目、2の長崎県総合計画の一部見直しとの関係のところに記載しておりますけれども、あくまでもビジョンでは今から10年後をイメージしていますので、総合計画チェンジ&チャレンジ2025とは時間軸が違うものであります。ビジョンで10年後のありたい姿を描いたときに必要になってくる施策等がございますので、その施策については、総合計画チェンジ&チャレンジ2025にも一部反映させ、2026年度からの新しい総合計画の中には、ビジョンの要素がさらに深く入ってくることになるだろうと考えています。

#### ○菊森委員

ということは、次期計画を作るに際しての基礎的な議論を今のうちにしておいて、それをこの新しい長崎県づくりビジョンという形で残しておいて、今後の総合計画の中に具体的に盛り込んでいくということでしょうか。

#### ●事務局（内田 政策企画課長）

現計画と次期計画の両方に、ビジョンの要素が入ってくると思います。

#### ○菊森委員

わかりました、両方に関わってくるという理解で。それともう一つ、今後、市町において総合計画を新たに作られるところも出てくると思うんですね。今日も村上さんからご指摘いただいたと思うんですけど、それとの関わりで、いわゆる今までは県市町の連携という行政組織の連携という形で表現してきた方が多いと思うんですけど、今後の財政の問題とか、様々な具体的な政策連携が

必要になってくる局面がもっと増えてくると思うんですけど、その辺のところは今後のこの総合計画の一部見直しの中に何らか盛り込んでいかれるのか、或いは、それはもう自明の理としてこの計画とは別のところ置いておくのか。その辺はどうなんでしょうか。

●事務局（内田 政策企画課長）

今の計画そのものも市町と一緒にやっていくというふうになっておりますので、そこは別にしながらだとは思いますが、当然新たな施策を書いていますので、そういう部分についてはより丁寧に、もちろんこういうビジョンもより密接にならないといけないと考えています。

○菊森委員

わかりました。ありがとうございます。

●事務局（内田 政策企画課長）

ほかに何かありましたら。

よろしいでしょうか。それでは本日の意見交換は終了します。皆様から有意義な、貴重なご意見をいただき、どうもありがとうございます。ご意見を踏まえて、次回の懇話会にはビジョンの全体像をお示しできるようにしたいと考えております。それでは、事務局に進行をお返しします。

●事務局（小柳 政策企画課企画監）

委員の皆様、長時間にわたりありがとうございました。次回の開催でございますけれども、先程申しあげましたとおり、8月頃を予定しております。後日、日程調整をさせていただきますのでよろしく願いいたします。それではこれもちまして第2回懇話会を終了します。ありがとうございました。

以上